

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号473にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:472 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。

COOP-JOSO News Letter

2021年4月1回号 発行: 常総生協広報G



2021年度活動テーマ(案)「笑顔で育む免疫力」

東海第二原発運転差止訴訟 水戸地裁一審判決

歴史的**勝訴**判決

再稼働認めず！首都圏も守られた！



○司法は生きていた！

水戸地裁（前田英子裁判長）は18日、原告（住民側）の訴えを認めて、運転を禁じました。東京電力福島第一原発事故から10年、首都圏に唯一立地し、運転期間が40年を超えている原発。前田裁判長は「避難計画やそれを実行する体制が整えられていない」として再稼働を認めない判決を言い渡しました。司法は生きていた。再稼働を認めなかった。「勝訴」の旗が上がったときは原告の歓喜の声が上がりました。

○傍聴席の倍率18.8倍

18日、水戸地方裁判所では傍聴希望者に向けた整理券の配布が行われ、大勢の人たちが列を作りました。13席の傍聴席に対して希望者は244人で、倍率は18.8倍だったということで、原告側の強い想いと、団結が実を結んだと思います。

○弁護団長 河合弘之弁護士「歴史的な判決」

判決について「原告や支援者の力強い結束できょうのすばらしい判決が出た。避難計画が不十分だというわかりやすい理由で勝訴したのはよい意味で予想外で、歴史的な判決だと思う。人口密集地帯で事故を起こしたらどうするのかという主張が裁判所に届いたと思う」と述べました。また、嬉しいことに「常総生協に感謝を申し上げたい。小さい生協ですが、常総生協は本当にいい生協ですよ」と仰っていただき、本当に嬉しかったです。



○原告団共同代表 相沢一正氏

『運転してはならない』という裁判長の声を聞いたときに目頭が熱くなりました。主張が明確に届き、福島第一原発事故の教訓が生かされました。日本原電が対策工事を完了し再稼働を強行しないよう、闘いを継続していきたいと話していました。



○原告団共同代表の大石光伸（元常総生協副理事長）氏

福島のことを忘れてはいけません。福島第一原発事故によって生活を奪われた方々や、人生を失った方がいること、そうした事実を裁判長が重く受け止めて下さったと思う。放射能によって汚染された空気、土、そして赤ちゃんにとって生きていくために必要な母乳までも汚染されてしまう。

生協で「食はいのち」の理念の根底を覆すことは二度とあってはいけません。と8年間の原告団の代表として、また、当時生協の代表として原告団を呼びかけた想いを話していました。



○3/18判決日を終えて（常総生協 専務理事 伊藤博久）

今この文章を書いているのが裁判判決日（3/18）の夜です。8年前訴訟を起こすとき、私は入協3年目で、供給職員でした。当時を思い返しても、生協が裁判を起こす。ということが良く理解できていなかったと思います。しかし、当時生協の代表だった大石さんが言った一言が今でも胸に残っています。たぶん大石さんは忘れていとおもいますが……。毎年土浦の花火大会を生協職員で集まって見に行く行事があり、震災後の花火大会の時に、私は家族を連れて参加しました。その時にうちの子どもに「この子たちが安心して暮らせるようにがんばるからね～」と話しかけていました。判決を聞いてその時の事を走馬灯のように思い出しました。長い年月、何度もくじけそうになった時もあつたけれど話された大石さん。その覚悟と続けてきた姿は、本当に「すごい」と思いました。

8年間の間には色々な事がありました。生協ではしばらく赤字が続き、「裁判より本業をなんとかしなければ。裁判ばかりやっているから」という声もありました。しかし、組合員さんの粘り強い支えがあって何とか生協事業も黒字化することができ、脱原発活動も続けていく事が出来ています。生協で調査した汚染マップ、母乳検査、空間線量、食品検査。これらは組合員、生産者、職員が力を合わせて調査した結果です。判決を聞いて、「あの福島原発事故で恐怖を感じていた日々が伝わった。未来に希望が持てる」と素直に思いました。留守番をしていていた内勤職員も中継のツイキャスを見てくれていて「勝ったー」と盛り上がっていたそうです。

日本原電は控訴するとすでに表明しています。戦いはまだまだ続いていきます。第一審判決の結果は本当に嬉しいですが、次に向けて準備をしなければいけません。

今年の2月の常総生協理事会にて控訴審も引き続き常総生協が原告団事務局としてやっていく方針が決まりました。長い戦いになりますが、いのちを脅かす恐れのある原発は絶対に止めて、次世代に明るい未来を渡せるように今、行動する時だと思います。共に頑張りましょう！



頑張り三唱の音頭をとった伊藤専務理事



画面で見守る生協職員

黒澤さんのお米200kgを開智国際大学へ支援として渡してきました！



(写真右から布田大学事務局長、柴原副学長／常総生協：増本理事長、高橋理事、小宮山理事)

●フードバンクとは？

品質に問題がないにもかかわらず、市場で流通できなくなった食品や家庭に眠る商品を色々な方や企業から集めて、生活困窮世帯に無料で食品を届けるフードバンク活動。常総生協では、福島第一原発事故後の支援(2011年～)、茨城県常総市の水害(2015年)、岩手県岩泉市の水害(2016年)、熊本県の震災支援(2017年)の際に「フードバンクちば」と連携して物資の配布などに取り組んできました。今回は

「フードバンクちば」の支援物資とともに、宮城県涌谷町にて農薬無散布・化学肥料不使用で米づくりをおこなっている黒澤重雄さん・伸嘉さんより「つや姫2kg」を合計100袋いただき、常総生協の供給エリアでもある千葉県柏市の私立「開智国際大学」へ渡しに行きました。



2020年春に発生した新型コロナウイルスは「大学生」にも大きな影響を及ぼしています。開智国際大学でもオンライン授業に切り替えたものの、学校で予定していたイベントはほとんど開催できておらず、学校と学生との交流の場が激減しています。さらに当大学では中国、ベトナム、マレーシアなど東南アジアからの留学生が多く経済的にアルバイトで生計を立てている学生が数多くいます。しかし、新型コロナウイルスの影響で飲食店等のアルバイトができず、収入源を奪われている状況です。カップ麺や飲料など

のフードバンクの支援物資に加え、今回の黒澤さんのお米「つや姫2kg袋」は個々の学生が分けやすく、使いやすい上、米食になじみが深い留学生が多いので、とても助かりますと、非常に喜ばれました。

●黒澤さんの想い

新型コロナウイルスは全国各地で影響を及ぼしています。私たちもフードバンクのような取り組みにできるだけ関わっていきたいと思います。その際には“余った食べ物”という事ではなく、**生活が困窮してしまった人ほど美味しいお米を食べて元気になってもらいたい**。その一心で今回お米をお渡ししました。機会があればこうした支援を続けていきたいと思っています。



●地域生協として

新型コロナウイルスの影響により、フードバンクのような支援団体が全国で活躍していますが、未だ支援物資が行き届かない状況です。今回訪れた開智国際大学の学生数は約550名と全国でも比較的少ないですが、留学生を多く受け入れ日本人学生と共に切磋琢磨することでグローバル社会に対応できる人材を育成しています。今後も継続的な支援をしていくと共に、地域自給大豆を目指した「みそ作り」や援農など、地域の大学とも繋がりを深めていくきっかけとなりました。

今後もフードバンクちば・いばらきと連携して活動を続けて参ります。

今年も企画します！坂東市：青木さんが育てる固定種のトマト苗「ステラトマト」

＼成長が楽しみ♪ 収穫する喜びを感じよう♪／ 苗をご自宅で育ててみませんか？

4月1回注文番号 **405201** ミニトマトの苗
(ステラトマト) 1株 272円(税込298円)

※ステラトマト…南米原産。近年F1品種ばかりになったミニトマトの中で、1992年タカヤマシードが発表した希少な固定種のミニトマトです。裂果が少なく、甘くてコクがあります。今回は2019年に常総生協本部で講演を行った固定種・在来種専門店「野口種苗店」の種を坂東の有機農業生産者「青木さん」が育てたものをお届けします。



※4月1回の注文となりますが、**お届けは5月2回となりますのでご注意ください。**

～なぜ苗の企画をやるのか？自分で作る気づき、喜び～

常総生協では「有機農業」の推進をおこなっています。常総生協がかかげる「有機農業」は、単に「**●●農薬を使っていません**」という事ではなく、「人の健康・生命を支えるもとだね」として考え、健康な土づくりから行っているか、地域や土地で循環させる農業をおこなっている、またそれを目指しているかを指します。

その推進の一環として、2009年から野菜そのものだけでなく「苗の企画」をおこなってきました。それは有機農業をおこなっている地場農家さんから実際に夏・冬野菜として出荷する苗をいただき「まずは私たち(組合員)でも育ててみよう！」という取り組みです。私たちは生産者に多くの事を求めがちですが、実際に作ってみると様々な気づきがあります。そして収穫の喜びもまたひとしおで、野菜を作る大変さを共に分かち合うことができます。

今年は2月に飯野さんの固定種(自家採種)の苗、微生物農法の会の長島さんの苗、そして今回は昨年に引き続き坂東市の若手有機農業生産者の青木さんに育ててもらった苗(ステラミニトマト)の企画販売です。

(写真：青木さん)

